

不登校児への支援ノウハウ向上のための研修

特定非営利活動法人 フリースクールみなも
〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満 1-4-3

助成事業の概要

事業の目的

不登校の子どもたちのサポートには、通常よく取り入れられる「居場所」と呼ばれる手法のみならず、子どもの状態に応じて多種多様なスキルが要求される。しかし単独のフリースクールでそのスキルをすべて持ち合わせるのは容易ではなく、当団体においても不足するスキルや課題は多い。

事業内容

そこで当事業においては、不登校に付随する様々な状態への支援スキル向上のための研修を開催した。内容は特に不登校との関連が強い「発達障がい」「起立性調節障害」という、具体的な状態に関して、子どもたちへの「学習サポート」のスキルに関して、サポートの前提となる「子どもの状態を正しく把握するノウハウ」、「保護者のサポート」について、そして組織の維持そのものに関わる「防災」「労務」に関してとなった。

実施時期

講師を招いての研修…2014.5～2015.3 内に計 10 回、当団体スタッフによる学習サポート研修…2014.5～2015.3 内に計 50 回、保護者サポート研修…2014.4～2015.3 内に計 12 回、様々なスクール見学…2015.1～2015/3 内に計 6 回

事業の成果

■スタッフ研修

開始当初では、フリースクールを運営する上で

不足するノウハウを単発で企画するだけだったが、回を重ねていくうちに、それらの内容は「リスク管理」という言葉をキーワードに、一つの流れとなって動き始めた。

リスクとは、「フリースクール」という手法では対応しきれないリスク、情報の不足による対応ミスリスク、教育とは無関係の危機（事故・災害等）による組織の存続に対するリスク、である。

フリースクールに由来からある「居場所」と呼ばれる手法は、不登校対応に一定程度有効である一方で、その手法に固執するあまり、その手法「のみ」では対応しきれない子どもたちがいることに目をつぶる傾向があった。今回は従来の手法の長所・短所を見直した上で、それだけでは足りないノウハウを新たに吸収し、また整理するよい機会となった。

■学習サポート研修

具体的なスキルアップの一つとして、子どもたちにいかに学習を指導するか、という研修を行った。内容は主に数学（中学・高校）、国語（現代文・古典）が中心となった。

■保護者サポート研修

こちらは、月 1 回行っている不登校の子どもを持つ保護者の集まる「親の会」に、フリースクールのスタッフが参加し、保護者の話を聞く形で開催した。日頃子どもとの対応はよくするが、保護者とのやりとりが多くないスタッフが、親の気持ちを理解する機会となっていればと思う。

■スクール見学

不登校の子どもたちを受け入れる様々なタイプのスクールを見学する機会を提供した。こちらは主に、これから不登校児のサポートをするスタッフを目指す若手に向けたもので、そうした人たちがより深くフリースクール等の教育を理解する機会とした。

なおこの一連の研修は、団体内部のスタッフの他近隣のスクールスタッフや、これからフリースクール等を目指す若者等も参加可能なものとし、広くスクールスタッフ等のスキル向上の機会とした。募集は日頃から交流のあるスクール等メール等で告知をした他、スクール見学については、これからフリースクール等のスタッフを目指す若者等が集まるイベント（他団体主催）でチラシを配布し、広く参加者を募り、開催した。

■成果の広報、公表

研修の成果については、まず一連の研修で学んだ内容を整理し、まとめた冊子「フリースクール的手法の有用性と課題の把握」を発行し、まとめた。こちらは内容の振り替わりはもちろんだが、発達障害や起立性調節障害等の、具体的な知識の振り返りにも有効と思われる。

また特に、緊急時に瞬時に見返す必要がある「防災」については、ポケットサイズの別紙を作成し、フリースクールのスタッフや子どもたちにも配布した。これにより緊急時の子どもたちの避難等が、少しでもスムーズに行われればと期待する。

こうした事業成果の公表については、関係団体や個人へ報告書・防災マニュアルを郵送で発送した他、URLの公表により行っている。防災マニュアルについては、発行したものは当団体の仕様となっているが、Illustratorファイルでの公表により、他団体に広く改訂・使用してもよいものとした。

（こちらはURL公開ではなく、当団体へ連絡の上、ファイルを譲渡する。）

報告書 URL：

http://homepage2.nifty.com/freeschool_minamo/kensyu_kouzaikai_150315.pdf

■今後の展開

以上のように様々な観点からスキルの研修を行い、フリースクール的手法の利点の見直し及び従来手法で足りないスキルを整理できたことは、今回事業の大きな成果であった。その一方で、例えば発達障がいの研修は2時間の研修が3回、起立性調節障害は2時間の研修が1回、その他の内容もほぼ同様の時間であったことを考えると、まだまだ客観的な知識の補強と入門編にとどまっているのは否めない。

今回の報告書がいずれも「Ver.1」との表記になっているのはその現れである。まだまだ不足している内容、間違っている内容も多いことと思う。そのため、今後ともこうした内容に関して研鑽を重ね、マニュアルも随時改訂し、本当の意味でスキルを身につける努力は、今後とも継続しなければならない。今回得た知識や報告書の内容をベースとし、今後とも研修を重ねより不登校の子どもたちのサポートスキルを向上させていきたい。